

幹 事 会 議 事 録

平成 27 年度 SGST 第 1 回幹事会 議事録

日時：平成 27 年 4 月 16 日(木) 14:45～15:30

場所：名城大学 天白キャンパス 研究実験棟Ⅱ 多目的室

出席者：舘石(名大)、松村・櫻井(瀧上)、川瀬(日中 C)、加藤(中日本エンジ)、川西(豊田高専)、木下(岐阜大)、渡辺(名城大)、伊藤(名大)、山田・三輪(日車)

以上 11 名(敬称略)

<幹事会議事内容>

1. 平成 27 年度 新幹事について

- ・代表 舘石 和雄 名古屋大学 大学院 工学研究科 社会基盤工学専攻
- ・幹事長 松村 寿男 瀧上工業(株) 技術開発グループ
- ・事務局担当 櫻井 勇太 瀧上工業(株) 生産本部 設計グループ
- ・会計担当 川瀬 瞳 日中コンサルタント(株) 名古屋支店
- ・企画担当 長瀬 雅司 日本車輛製造(株) 輸機・インフラ本部
品質保証部 品証二課
- ・HP担当 加藤 正実 中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋(株)
技術開発部
- ・研究会担当 海老澤健正 名古屋工業大学 都市社会工学科
川西 直樹 豊田工業高等専門学校 環境都市工学科
北根 安雄 名古屋大学大学院 工学研究科 社会基盤工学専攻
木下 幸治 岐阜大学 工学部 社会基盤工学科
鈴木 森晶 愛知工業大学 工学部 都市環境学科 土木工学専攻
渡辺 孝一 名城大学 理工学部 社会基盤デザイン工学科
- ・会計監査 川西 直樹 豊田工業高等専門学校 環境都市工学科

2. 平成 27 年度 SGST 活動計画

1) 定期研究会

・第 2 回定期研究会

日時：6 月 18 日(木) 16:00～(幹事会 15:00～15:40)

場所：名城大学 天白校舎 研究室実験棟Ⅱ 多目的室

研究会担当幹事：木下先生

講演内容：4/16 幹事会にて下記の通り決定。

・構造物のモニタリング関係

(株式会社 T T E S 代表取締役 菅沼久忠 氏

東京工業大学 土木・環境工学科 特任准教授)

・第 3 回定期研究会

日時：8 月 20 日(木) 16:00～

場所：名城大学 天白校舎 研究室実験棟Ⅱ 多目的室

研究会担当幹事：渡辺先生

講演内容：下記の講師への打診を決定。

- ・内容未定(横河ホールディングス 高森氏)

暑気払い：場所未定

- ・第4回定期研究会

日時：10月16日(金)16:00～

場所：名城大学 天白校舎 研究室実験棟Ⅱ 多目的室

研究会担当幹事：北根先生

講演内容：未定

- ・第5回定期研究会

日時：12月18日(金)16:00～

場所：名城大学 天白校舎 研究室実験棟Ⅱ 多目的室

研究会担当幹事：川西先生

講演内容：未定

忘年会：場所未定

- ・第6回定期研究会

日時：2月19日(金)

講演内容：現場見学会を予定（幹事団にて段取りする）

2) 定期研究会テーマについて

- ・アンケートにてテーマを募集する。例えば、

○海外橋梁、補修工事、工事報告など（産・官・学の産が少ないため、ファブなど）

3) WGテーマについて

- ・アンケートにてテーマを募集する。例えば、

○新技術に関する情報交換

（実際に補修設計をしているコンサルタントとの意見交換など）

※総会では、WG活動もSGSTの活動として存在することをアピールすることとした。

4) 現場見学会案について

- ・第6回に予定している見学現場をアンケートにて募集する。例えば、

○大規模な補修工事の現場見学

○詳細調査(応力測定など)や実際にモニタリングを実施している現場見学など

※2) 3) 4) については、アンケート結果を次回幹事会にて報告する。

3. 平成26年度会計報告

次年度繰越金は 2,798,959 円 であることが確認された。

4. 平成 26 年度活動報告集確認

活動報告集が CD で会員に手渡し（欠席者には送付）することが確認された。

5. 本日の総会, 定期研究会について

- ・平成 27 年度総会 15：45～

内容：平成 26 年度活動報告、会計報告、退任幹事紹介

平成 27 年度幹事案、新幹事紹介、活動計画

- ・第 1 回定期研究会 16：00～

内容：橋梁用高性能鋼材 SBHS 鋼のための繰り返し材料構成則の構築と

鋼製橋脚への適用性の検討

講演者：海老澤委員 名古屋工業大学

懇親会：フリースタイル居酒屋 BARON 塩釜口店 18：00～

以上

平成 27 年 4 月 16 日

SGST 事務局

SGST 会員各位

H 2 7 年度 S G S T 活動に関するアンケート調査

平素は SGST の活動にご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、SGST では平成 27 年度から代表、幹事が一新されたこともあり、ご要望、ご意見等をアンケート調査し、2 年間の活動に関しまして、内容の充実を図りたいと思っております。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、下記にご記入頂ければ幸甚でございます。

記

1. 定期研究会のテーマについて

定期研究会で扱うテーマについて、ご希望がありましたらご記入下さい。

例) 維持管理に関するテーマを取り扱って欲しい。

- ・
- ・
- ・

2. 新規ワーキンググループ (WG) のテーマについて

新規 WG のテーマについて、ご要望がありましたらご記入下さい。

例) 新技術に関する情報交換をしたい。

- ・
- ・
- ・

3. 現場見学会について

見学内容・見学先等、ご意見・ご要望等ありましたらご記入下さい。

例) 鋼橋の架設現場を見学したい。

- ・
- ・
- ・

4. その他 (フリーコメント)

SGST の活動に対してご意見・ご要望等あれば、ご記入下さい。

- ・
- ・
- ・

所属	氏名

以上

平成 27 年度 SGST 第 2 回幹事会 議事録

日時：平成 27 年 6 月 18 日(木) 15:00～15:40

場所：名城大学 天白キャンパス 研究実験棟Ⅱ 多目的室

出席者：舘石(名大)、松村・櫻井(瀧上)、川瀬(日中 C)、長瀬(日車)、加藤(中日本エンジ)、
川西(豊田高専)、北根(名大)、木下(岐阜大)、渡辺(名城大)

以上 10 名(敬称略)

<幹事会議事内容>

1. H27 年度 活動方針アンケート結果について

下記以外の意見は、アンケート結果集計表を参照のこと。

- ・定期研究会テーマについて
 - 「保全(診断・事例含む)」が最多(41%)
 - 海外の先生を招いた講演の機会があれば、定期研究会ではなく、臨時研究会として開催する。
- ・WGテーマについて
 - 「新製品」が最多(52%)
 - *名古屋大学 判治先生より海外の最新の限界状態設計の勉強会について相談があった。
- ・現場見学会について
 - 「補修現場」が最多(50%)
- ・フリーコメント
 - 集計表参照のこと。関係イベントへの補助、会員増提案などの意見があった。

2. 新規会員の紹介

1) 特別会員

- ・(株) 東京測器研究所(代表：平岩健一様)
- ・山田塗装(株)(代表：山田翔平様)

2) 正会員

- ・水谷慎吾様(JFE エンジニアリング(株))
- ・葛西 昭様(熊本大学大学院自然科学研究科 環境共生工学専攻 社会環境工学専攻)

3. 定期研究会案内にて連絡がとれなくなった会員についての対応方法について

今後も連絡が取れない場合は、退会扱い(データより削除)としたい。

- ・虫賀恭一様(名古屋高速道路公社：当時特別会員。退社された模様。)
 - 現職の連絡先(個人経営)に連絡し、入退会について確認する。

4. ワーキンググループ(WG)について

以下2つのワーキンググループについて提案があります。

①「AASHTO LRFR 勉強会ワーキング（仮）」

趣旨：LRFR の翻訳（範囲を分担する）により、海外の既設橋の耐力評価方法等を勉強する。

対象：30代までのSGST若手技術者+M1学生（試行）

10名程度の小規模運営（毎回出席を確約頂ける委員）

（40代以上でも確実に参加頂ける方は選定により委員決定）

運営者：委員長 判治先生（名大）

委員会幹事 川瀬氏（日中コンサルタント・幹事会）

活動日時：SGST当日の午前中に名大にて実施。SGST日以外も年間日程を組んでハードに実施。

成果：「橋梁と基礎」などの雑誌に「SGST」から投稿し「報告書」とする。

②「新技術情報交換ワーキング（仮）」

趣旨：民間業者の扱っている「構造物に関する最新技術（補修技術、情報技術、診断技術等）」をアピールする場を設け、その技術に対し討議を進め、SGST会員の最新技術情報取得をめざす。

（発表して頂ける民間業者は自社製品アピールのため、発表および旅費は原則ご負担頂く。発表者にSGST法人入会を促す）

対象：30代以上のSGST中堅技術者以上

会員なら何名でもOK。大規模運営（気軽に参加できる情報交換会）

運営者：委員長 木下先生（岐阜大・幹事会）、

委員会幹事 岡本氏（パンフィックコンサルタンツ）

活動日時：SGST定期研究会前の15:00-15:40で実施する。（幹事会～15:00迄に再設定）

成果：SGSTの委員会報告書などにまとめる。

※いずれの研究委員会も新幹事団任期の活動期間2年間を想定。委員長および委員会幹事については内諾済み。

※研究会委員を定期研究会後に募集する。締切日8月12日。本日の幹事会承認後、定期研究会でアナウンス（後日、研究委員会公募案内を送付）し、メールの返信をもって委員参加を決定。

討議内容：

- ・会則による名称に倣い「研究委員会」「委員長」「委員会幹事」と呼称する。
- ・研究会の目的はSGSTの会員の資質向上と活動内容を外部に発信することである。
- ・研究委員会の立ち上げの承認は、本日定期研究会後に案内して後日公募し、次回の定期研究会前に「臨時総会」を招集し、会員の承認を取る段取りとする。応募人数が少ない場合は、別途相談とする。
- ・LRFR研究委員会について、翻訳はハードであるため脱落者が出る可能性がある。過去の海外文献の勉強会として平成19年度の翻訳委員会(清水先生)は、17回活動している。ベテランが業務多忙により集まらないことを前提として、若手により運営

していた模様。今回の人員構成は、コンサルタント・ファブリケーターが 5～6 名、学生が 3～4 名程度を想定している。学生の参加については、試行としての位置づけである。東海地方のコンサルタントやファブリケーターの情報を学生に発信したいと思っている。なお、学生の参加は先生方の承認が必要。

- ・新技術研究委員会について、異分野の土木業界への参入が進められている中、研究会としてそれらの最新情報を得る必要性が出てきている。新技術をプレゼンするだけでなく、討議することにより開発者へのブラッシュアップと会員の業務へのヒントになる。

5. 日本橋梁建設協会「伊藤學賞」及び「技術功労賞」候補者推薦依頼について (橋建協より)

〈伊藤學賞：長年にわたり鋼橋の発展に貢献した方を対象とし、其の功績を讃える〉

〈技術功労賞：昨年度新設。鋼橋に関連する業務に従事し、わが国の鋼橋技術の進歩・発展に寄与するとともに鋼橋を通じて社会に貢献した、原則として 60 歳以下の方を表彰〉

- ・「伊藤學賞」については、平成 25 年度は宇佐美教授を推薦した。当時の幹事会議事録において、「通るまで宇佐美教授を推薦していく方向で対応」との記述あり。(H26 年度は未受賞)
- ・「技術功労賞」については、宇佐美教授が 60 歳を超えられているため、別の候補者を推薦する必要がある。討議後、幹事会から担当を決め、推薦状を作成する必要がある。
- ・候補者があれば、幹事及び事務局に連絡する。

6. 第 3 回定期研究会について

日時：8 月 20 日(木)16：00～

※研究委員会発足に関する臨時総会を 16：00～16：10 に開催し、その後定期研究会とする。

場所：名城大学 天白校舎 研究室実験棟Ⅱ 多目的室

研究会担当幹事：渡辺先生

講演内容：インドネシアの橋梁事情とプロジェクト紹介(案)

※講演内容は、現場で経験した内容である。

講師：横河ホールディングス 高森氏

暑気払い：場所未定

第 4 回定期研究会

日時：10 月 16 日(金)16：00～

場所：名城大学 天白校舎 研究室実験棟Ⅱ 多目的室

研究会担当幹事：北根先生

講演内容：未定

提案候補者(北根先生)：

①中国地方での鋼橋の維持管理に関して

ーRAMS(構造物の維持補修技術研究会)の紹介も含めてー

講師：広島大学 藤井堅教授

RAMS は広島地区を中心とした鋼構造物全般の研究会。

②日本の送電鉄塔の現状と維持管理

講師：日本鉄塔工業(株) 本田誠氏 または 東電設計(株) 中村秀治氏
愛知工業大学での実験について、お話頂けるのではないかな。

③腐食に関する点検技術の紹介

ー3次元表面形状計測ー 講師：(株)セイコーウェーブ 新村稔氏
ーパルス渦流探傷ー 講師：(有)TTS 中野裕二郎氏
プラントなどの現状(デモ等も含めて)

④その他

・渡辺先生から海外の案件のご提案でミャンマーの高架橋について(JFE エンジニアリング)についても検討可能。

※①or②のどちらかで、講師との調整を北根先生にお任せしたい。

第5回定期研究会

日時：12月18日(金)16:00～

場所：名城大学 天白校舎 研究室実験棟Ⅱ 多目的室

研究会担当幹事：川西先生

講演内容：未定、忘年会：場所未定

※川西先生より首都大学東京 野上教授を打診されることを提案された。

第6回定期研究会

日時：2月19日(金)

講演内容：現場見学会を予定(幹事団にて段取りする)

7. 本日の定期研究会について

・第2回定期研究会 16:00～

内容：構造物モニタリングの現状と進展

講演者：菅沼久忠様

(株式会社TTES 代表取締役、東京工業大学 土木・環境工学科 特任准教授)

・総会後にアンケート結果報告及び新規WGの案内

以上

平成 27 年 5 月 12 日

SGST 事務局 櫻井

SGST 平成 27 年度活動方針に関するアンケート結果(訂正)

1. 定期研究会のテーマについて

○保全(診断、事例含む)

- ・点検ロボット、ラジコンヘリ
- ・海外における維持管理の実情
- ・補修、補強事例
- ・塗装塗り替え(プラスト、鉛対策など)

○設計法(国内、海外)

- ・海外の先生方に合わせて研究会実施
- ・限界状態設計法、許容応力度法の比較

○新技術(保全以外)

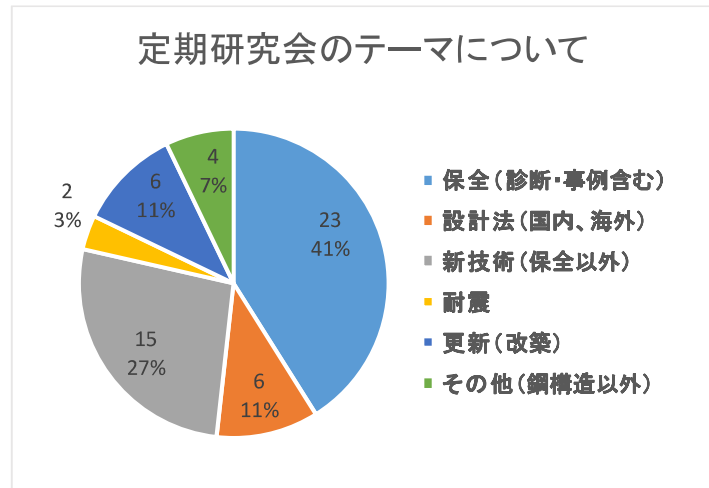
- ・3D 技術、CIM
- ・複合構造

○耐震

- ・時刻歴応答解析
- ・制振デバイス、繊維巻立など

○更新(改築)

- ・高速道路会社における大規模改修
- ・既設床版の取替



○その他(鋼構造以外)

- ・防災関連(水門・ゲート・避難タワー)
- ・トンネル、地盤補強
- ・建設 ICT

2. 新規ワーキンググループ(WG)のテーマについて

○新製品

- ・新材料の新たな活用について
- ・最新技術の紹介
- ・複合材(GFRP+金属、CFRP+金属)

○教育(若手への技術伝承)

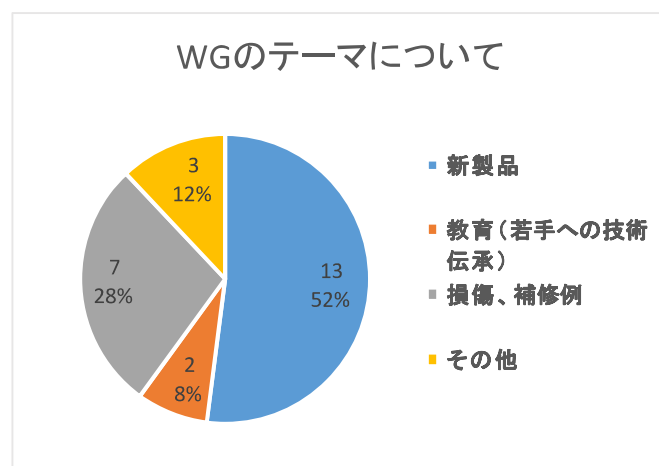
- ・長大橋などの特殊橋梁の試設計

○損傷、補修事例

- ・点検、診断、調査、長寿命化
- ・損傷に対する補修技術のケーススタディー
- ・伸縮装置の漏水対策

○その他

- ・シミュレーションソフト(解析ソフト)
- ・官民学による土木技術の一般向けのアピール



3. 見学会について

○新設現場

- ・ 東海環状、名二環
- ・ 新名神関連
- ・ 直吊、斜吊現場

○補修現場

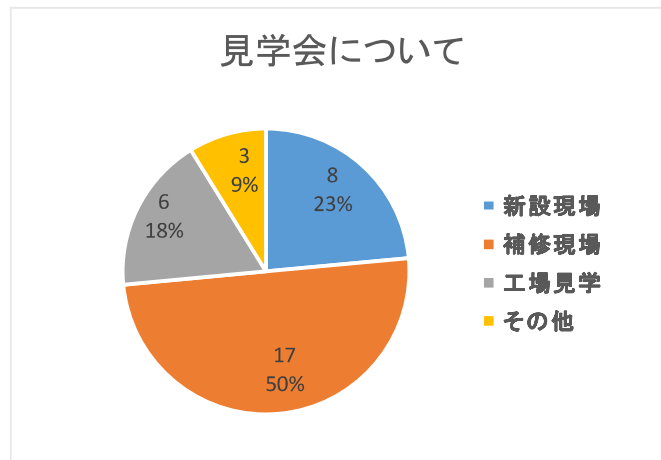
- ・ 拡幅工事
- ・ トラス橋補修現場
- ・ 塗装、ブラスト
- ・ 腐食事例など

○工場見学

- ・ 支承、HTB の工場
- ・ 鋼橋などの製作工場

○その他

- ・ トンネル現場
- ・ 研究所、研究室、実験など
- ・ 新技術、特殊構造物現場



4. その他（フリーコメント）

- ・ 学生に土木（橋梁）に関することを広める。
- ・ 分析、試験などの紹介、講演など協力させていただきますので、よろしくお願い致します。
- ・ 産官学のバランスをうまくとって。
- ・ 他の研究会（東京、九州、関西）との交流。
- ・ 若手が成長できる研究会になるように。
- ・ 演題は、全国でのトピックスから選定しても良いと思う。
- ・ 2016 年 3 月にアジアスチールブリッジコンペティションが東京にて開催予定であり、是非協力してほしい。
- ・ 2015 年 8 月末の日本ブリコンにも御協力頂きたい。
- ・ 長く続くために、会費を増す必要があるのではないのでしょうか。
- ・ メーカー、コンサルタント様の講演が増えても良いのでは？
- ・ 会員数が少ないため、会員数を増やしてはどうか？50 万/年で十分な活動ができるか？
- ・ 鋼構造に限定せず、PC メーカー、コンサルに声をかける。（PR 活動）
- ・ 会員数が増えれば活性化につながる。会費収入が増え、研究活動費を増やすことができる。
- ・ 開催地を名古屋駅付近にしてほしい。
- ・ JR など、他では聞けない講義に期待しています。
- ・ 建設コンサルタントからの参加者が少ないように感じられます。何か施策は？

以上

H27年度活動計画

- ・アンケート結果のご報告
- ・新規WG発足のご案内

平成27年6月18日



アンケート結果～定期研究会テーマ～

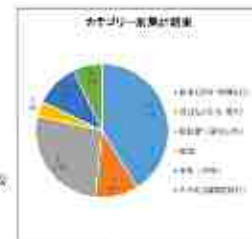
- ①はく鋼筋、束を基盤
- ・山越コナート、ラジコンベリ
 - ・境界に与える影響調査の調査
 - ・鋼筋、鋼筋束
 - ・鋼筋束の長さ
 - ・ブラス、鋼筋束の長さ

②はく鋼筋、鋼筋

- ・鋼筋の束の長さに与える影響調査
- ・鋼筋束の長さ、鋼筋束の長さ

③鋼筋束(鋼筋束)

- ・鋼筋束、鋼筋
- ・鋼筋束

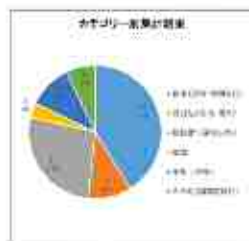


アンケート結果～定期研究会テーマ～

- ①はく鋼筋、束を基盤
- ・鋼筋束の長さ、鋼筋束の長さ
 - ・鋼筋束の長さ、鋼筋束の長さ

- ②はく鋼筋、鋼筋
- ・鋼筋束の長さ、鋼筋束の長さ
 - ・鋼筋束の長さ、鋼筋束の長さ

- ③鋼筋束(鋼筋束)
- ・鋼筋束の長さ、鋼筋束の長さ
 - ・鋼筋束の長さ、鋼筋束の長さ



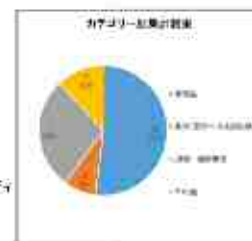
アンケート結果～新規WGテーマ～

- ①はく鋼筋、束を基盤
- ・鋼筋束の長さ、鋼筋束の長さ
 - ・鋼筋束の長さ、鋼筋束の長さ

- ②はく鋼筋、鋼筋
- ・鋼筋束の長さ、鋼筋束の長さ
 - ・鋼筋束の長さ、鋼筋束の長さ

- ③鋼筋束(鋼筋束)
- ・鋼筋束の長さ、鋼筋束の長さ
 - ・鋼筋束の長さ、鋼筋束の長さ

- ④鋼筋束(鋼筋束)
- ・鋼筋束の長さ、鋼筋束の長さ
 - ・鋼筋束の長さ、鋼筋束の長さ



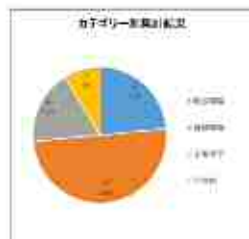
アンケート結果～見学会について～

- ①はく鋼筋、束を基盤
- ・鋼筋束の長さ、鋼筋束の長さ
 - ・鋼筋束の長さ、鋼筋束の長さ

- ②はく鋼筋、鋼筋
- ・鋼筋束の長さ、鋼筋束の長さ
 - ・鋼筋束の長さ、鋼筋束の長さ

- ③鋼筋束(鋼筋束)
- ・鋼筋束の長さ、鋼筋束の長さ
 - ・鋼筋束の長さ、鋼筋束の長さ

- ④鋼筋束(鋼筋束)
- ・鋼筋束の長さ、鋼筋束の長さ
 - ・鋼筋束の長さ、鋼筋束の長さ



“新規WG立上げの提案”

ワーキンググループ① (LRFR-WG)
AASHTO LRFR勉強会ワーキング(仮)

ワーキンググループ② (新技術-WG)
新技術情報交換ワーキング(仮)

ワーキンググループ① (LRFR-WG) AASHTO LRFR勉強会ワーキング(仮)

趣旨：LRFRの翻訳により、海外の限界状態設計の勉強会

対象：社会人と学生の交流を兼ね、
30代までのSGST若手技術者＋大学院1年生の10名程度を選定
(40代以上でも確実にご参加頂ける方は応募可)
※出席を確約頂ける委員に限定。若手を中心に選出。

運営者：WG長 判治先生(名古屋大学)
WG長補佐 川瀬氏(日中コンサルタント)

活動日時：定期研究会当日の午前中に名古屋大学にて実施
上記以外にも年間日程を組んでハードに活動

成果：「橋梁と基礎」などの雑誌に投稿

ワーキンググループ② (新技術-WG) 新技術情報交換ワーキング(仮)

趣旨：民間企業の取り扱っている構造物に関する最新技術の紹介
製品や技術などアピール頂き、討議により会員の最新技術
情報の取得を目指す
(最新技術：補修技術・情報技術・診断技術などなんでも可)
気軽に参加できる情報交換会をめざす。

対象：30代以上のSGST中堅技術者以上(20代も歓迎)
人数制限なし

運営者：WG長 木下先生(岐阜大学)
WG長補佐 岡本氏(バシフィックコンサルタンツ)

活動日時：定期研究会前の15：00～15：40に定期研究会会場にて実施

成果：「土木技術」などの雑誌に投稿

新規WGご入会の流れ

事務局より新規WG参加についてメールにてご案内



各WGへのご入会の意志をご記入の上、返信



各WGへのご入会手続き完了

平成 27 年度 SGST 第 3 回幹事会 議事録

日時：平成 27 年 8 月 20 日(木) 15:00～15:40

場所：名城大学 天白キャンパス 研究実験棟Ⅱ 多目的室

出席者：舘石(名大)、松村・櫻井(瀧上)、川瀬(日中 C)、長瀬(日車)、加藤(中日本エンジ)、
北根(名大)、木下(岐阜大)

研究委員会：岡本(パシ C)

以上 9 名(敬称略)

<幹事会議事内容>

1. 研究委員会について

1) 新規発足予定の研究委員会の紹介

①「AASHTO Load & Resistance Factor Rating (LRFR) 研究委員会」

委員長候補：判治先生(名大)、委員会幹事候補：川瀬氏(日中コンサル)

②「最新技術・情報調査研究委員会」

委員長候補：木下先生(岐大)、委員会幹事候補：岡本氏(パシフィックコンサル)

2) 新規研究委員会発足までの流れ(事務局)

前回定期研究会後に研究委員会発足に関する概要を会員に案内。

↓

第 2 回定期研究会から 8/12 までの間、委員会参加者を募集。

↓

研究委員会委員長候補より、7/1 起案書を受理。

↓

本日の臨時総会にて出席会員により研究委員会発足を承認。正式に活動を開始予定。

・上記の進行確認にて幹事会の了承を得た。

3) 研究委員会参加者

・別紙参照。

4) 討議

・研究委員会の活動期間は、どの程度を予定しているか。

→両研究委員会の活動期間は、およそ 2 年間を考えている。

・次回の定期研究会当日より、最新技術・情報調査研究委員会が活動開始予定であるが、研究委員会と定期研究会との間に幹事会を実施するため、研究委員会委員を待たせることになる。幹事会の時間を変更する検討が必要である。

→幹事会は、従来通り定期研究会前とする。しかし、幹事会議事次第をあらかじめ配布し、討議する内容を周知することにより、幹事会の時間を 30 分以下に短縮できるため検討したい。

→次回定期研究会当日の詳細なスケジュールは、各研究委員会の委員長・委員会幹事と調整後、幹事団に承認を受けた上で、会員に案内する。

2. 新規会員の紹介

1) 特別会員

- ・(株)興栄^{こうえい}コンサルタント(代表：畑佐陽祐様)

2) 正会員

- ・小枝芳樹様(川田工業(株))
- ・村瀬佐太美様(岐阜高専都市工学科 非常勤講師、土木学会選奨土木遺産関西地区推薦委員会委員長、鋼構造マネジメント研究会会員)
- ・虫賀恭一様(株岡本設計(中部大学 都市建設工学科 非常勤講師))
→現職の連絡先(個人経営)に連絡し、再入会頂いた。

3) 名誉会員・学生会員について

名誉会員及び学生会員について規定を定める必要がある。(昨年度幹事からの引継ぎ)
→名誉会員および学生会員に関する規定は、来年度の総会で会員に賛否を取れるよう、今年度内に規定案を作成する。他研究団体(KABSE など)を参考に継続討議を行う。
研究委員会に参加する学生会員については、現時点では暫定入会とする。

3. 日本橋梁建設協会「伊藤學賞」及び「技術功労賞」推薦について(橋建協より)

- ・「伊藤學賞」については、前回幹事会より宇佐美教授を推薦予定であったが、ご本人より辞退のご連絡を受けた。幹事会・加藤幹事よりご提案頂いた元瀧上工業(株)社長高木録郎様を推薦した。
- ・「技術功労賞」については、候補者の提案がなかったため、推薦者なしとした。

4. 日本鋼橋模型製作コンペ(ブリッジコンテスト)への補助について

岐阜大学 木下先生より、熊本大学で開催される「日本鋼橋模型製作コンペ」への補助について、お願いがあった。

→ SGST ホームページに掲載した。

補助については、中部圏の大学にて開催する際に後援を検討する。

5. 今後の定期研究会について

第4回定期研究会

日時：10月16日(金)16:00～

場所：名城大学 天白校舎 研究室実験棟Ⅱ 多目的室

研究会担当幹事：北根先生

講演内容：送電用鉄塔の変遷、現況およびメンテナンスについて

→講演タイトルには、「構造」というキーワードを入れて頂くようお願いし了承を得た。

講演者：日本鉄塔工業(株) 本田様

第5回定期研究会

日時：12月18日(金)16:00～

場所：名城大学 天白校舎 研究室実験棟Ⅱ 多目的室

研究会担当幹事：川西先生

講演内容：未定 → 次回幹事会までに幹事会にレジュメ(予定)を配布する。

講演者：首都大学東京 野上教授(交渉予定)

忘年会：場所未定

第6回定期研究会

日時：2月19日(金)

講演内容：現場見学会を予定(幹事団にて段取りする)

→補修現場を予定している。事務局にて検討し、該当現場がなければ別途検討する。

6. 本日の定期研究会について

- ・第3回定期研究会 16:10～

内容：インドネシアの橋梁事情とプロジェクト紹介

講演者：(株)横河ブリッジホールディングス 高森様

以上

東海構造研究グループ

Study Group of Structures in Tokai

2015年3月

東海構造研究グループとは

東海構造研究グループ（略称 S G S T）は、土木構造に関するあらゆる領域について研究する団体として、構造に関する諸団体（官公署、企業）および構造に関する業務あるいは研究に携わる個人とから構成されています。

このグループによる研究会は昭和53年に創設され、以後、組織改革が行われ、平成元年4月から新しい組織規約が作成され今日に至っています。これまでに種々の研究結果を挙げており、また、立場を異にする会員間の相互理解や親睦を深めるのにも大きな役割を果たしています。

沿革

- 昭和53年 4月 東海鋼構造研究グループ創設。代表 福本 嘯士
主として鋼構造部材の抵抗強度の信頼性評価が研究されました。
- 昭和59年 8月 東海構造研究グループと改称し、構造全般を扱うようにし、官公庁、企業、教育機関から多くの新規の会員入会がありました。
- 昭和61年11月 代表 長谷部 宣男
- 平成 元年 4月 組織規約が作成され、活動範囲を広げました。
- 平成 3年 4月 代表 宇佐美 勉
- 平成 7年 4月 代表 梶川 康男
- 平成 9年 4月 代表 山田 健太郎
- 平成13年 4月 代表 塩見 弘幸
- 平成15年 4月 代表 事口 寿男
- 平成17年 4月 代表 青木 徹彦
- 平成19年 4月 代表 久保 全弘
- 平成21年 4月 代表 後藤 芳顕
- 平成23年 4月 代表 近藤 明雅
- 平成25年 4月 代表 伊藤 義人

平成27年度 東海構造研究グループ代表および事務局

- 代表 舘石 和雄 〒464-8603 名古屋市千種区不老町
名古屋大学 工学研究科 社会基盤工学専攻教授
TEL 052-789-4620
FAX 052-789-1674
E-Mail itoh@civil.nagoya-u.ac.jp
- 事務局 松村 寿男 〒475-0826 愛知県半田市神明町1-1
(幹事長) 瀧上工業(株) 技術開発グループ
TEL 0569-89-2103
FAX 0569-89-2603
E-Mail t.matsumura@takigami-grp.jp
- 櫻井 勇太 〒475-0826 愛知県半田市神明町1-1
(事務担当) 瀧上工業(株) 設計グループ 設計チーム
TEL 0569-21-4208
FAX 0569-21-6137
E-Mail y-sakurai@takigami-grp.jp

■会の運営

会の運営は主として会員の納める会費があてられています。会費は会員の区分に応じて次のように決められています。

正会員	年額	2,000 円
賛助会員	年額	1,000 円
特別会員		
第 1 種	年額	30,000 円
第 2 種	免除	
名誉会員	免除	

特別会員の第 1 種と第 2 種については、研究会などへの行事参加への区別は全くありません。特別な事情により会費納入が無理な団体に対して、第 2 種は設けられていますが、現在はできるだけ第 1 種へ入会していただくようお願いしています。

■東海構造研究グループの活動

研究調査

研究会活動の中心となるもので、構造に関する種々の分野について、研究および調査を行います。隔月で開催される定期研究会で、その報告が行われます。この定期研究会は、立場を異にする者の間での情報交換の場となっています。また、重要度の高いテーマについては、研究委員会による重点的な研究、討論が行われています。

現場見学会

会員全体が参加する行事として、不定期に開催されています。

構造物研究および指導の委託

構造物に関する研究の委託および指導を受け入れています。委託の内容によっては委員会を作り、検討を行っています。

出版

本会の成果として、「鋼構造部材の抵抗強度の評価と信頼設計への適用」(1980) および「骨組構造物の座屈設計に関するフォーラム」(1994) を「橋梁と基礎」にそれぞれ 2 回に分けて発表しています。また、研究会での資料をまとめて「活動報告集」を毎年発刊しています。

講演会、講習会

構造に関する講演会および講習会の主催、共催または協賛を行っています。

協賛例：平成 2 年度 土木学会中部支部技術講座「構造物の設計にかかわる最近の話題」

平成 4 年度 土木学会中部支部技術講座「構造物設計における最近の話題

－景観設計とライフライン構造物の設計および管理－」

平成 6 年度 土木学会中部支部技術講座「土木構造物の維持・管理・耐久性」

平成 7 年度 土木学会中部支部技術講座「阪神大震災から得た教訓と今後の耐震設計
－橋梁構造物－」

共催例：平成 17 年度 橋梁技術発表会 「一橋梁技術の最前線」

主催：(社) 日本橋梁建設協会

平成 18 年度 構造工学フロンティア

主催：「構造工学フロンティア」実行委員会 (名古屋大学)

平成 24 年度 橋の最新耐震技術と維持管理のための新しい環境解析技術

主催：名古屋工業大学

組織と運営

■会員

東海構造研究グループは、以下に示す会員によって構成されています。会員には正会員、賛助会員、特別会員および名誉会員の4種があります。

会員区分	資 格
正 会 員	本会の各種事業の主体となって活動する次の各号に該当する者 (1) 構造物に関する業務に従事する者 (2) 構造物に関する学職経験者 (3) 前号に準ずる者
賛助会員	正会員の研究活動に参加したまたは支援する正会員の経験者およびこれに準ずる者
特別会員	本会の目的および事業に賛同し、本会を援助する会社および団体、特別会員は第1種と第2種に分かれ、第2種の会員は会費納入の義務を負わない。
名誉会員	本会および構造物に関する功績が特に顕著であって、本会の総会において推挙された者

■総会および定期研究会

重要な議決事項は総会で審議されます。総会は年1回開かれることになっています。定期研究会は、隔月で開催されています。

■役員その他

本研究グループでは代表、幹事長、幹事および会計幹事の役員をおき、会の運営にあたっています。現在の役員は次の通りです。

代表	舘石 和雄	名古屋大学 工学研究科 社会基盤工学専攻
幹事長	松村 寿男	瀧上工業(株) 技術開発グループ
事務担当	櫻井 勇太	瀧上工業(株) 設計グループ 設計チーム
会計担当	川瀬 瞳	日中コンサルタント(株) 名古屋支店
会計監査	川西 直樹	豊田工業高等専門学校 環境都市工学科
企画担当	長瀬 雅史	日本車輛製造(株) 技術部 技術第三グループ
研究会担当	渡辺 孝一	名城大学 理工学部 建設システム工学科
	川西 直樹	豊田工業高等専門学校 環境都市工学科
	北根 安雄	名古屋大学 大学院 工学研究科 社会基盤工学専攻
	鈴木 森晶	愛知工業大学 工学部 都市環境学科 土木工学専攻
	海老澤 健正	名古屋工業大学 大学院 工学研究科 都市社会工学専攻
	木下 幸治	岐阜大学 工学部 社会基盤工学科
HP担当	加藤 正実	中日本ハイウェイ・エンジニアリング(株) 技術開発部

東海構造研究グループ会則

制定 平成元年 4月1日

(名称)

第 1 条 この会は東海構造研究グループという。英文名を Study Group of Structures in Tokai とし、略称を SGST という。

(目的)

第 2 条 本会は、構造物に関する意見の交換及び調査研究を行うことを目的とする。

(事業)

第 3 条 本会は、前条の目的を達成するため、下記の事業を行う。

- (1) 構造物に関する研究会の定期的な開催
- (2) 講演会・講習会・座談会及び懇親会の開催及び協賛
- (3) 見学会及び視察
- (4) 構造物に関する試験及び指導の受託
- (5) その他、本会の目的達成に必要な事業

(会員の種別及び資格)

第 4 条 本会の会員の種別及び資格は次の通りとする。

(1) 正会員

本会の各種事業の主体となって活動する次の各号の 1 に該当する者

- (ア) 構造物に関する業務に従事している者
- (イ) 構造物に関する学識経験者
- (ウ) 前号に準ずる者

(2) 賛助会員

正会員の研究活動に参加し又は支援する正会員の経験者及びこれに準ずる者。

(3) 特別会員

本会の目的及び事業に賛同し、本会を援助する会社及び団体。

特別会員は第 1 種と第 2 種に分け、第 2 種の会員は会費納入の義務を負わない。

(4) 名誉会員

本会及び構造物に関する功績が特に顕著であって、総会において推挙された者。

(会員の入退会)

第 5 条 会員（名誉会員を除く）の入会並びに退会は、会員規定の定めにより手続きを行い、代表の承認を得なければならない。

(会費)

第 6 条 会員は、会費及び臨時経費を負担する。会費及び臨時経費の額は、会員規定で定める。

(役員)

第 7 条 本会には、次の役員を置く。

- (1) 代表 1 名
- (2) 幹事長 1 名
- (3) 幹事 若干名
- (4) 会計監事 1 名

(役員の任期及び報酬)

第 8 条 役員の任期は、2 年とする。ただし、再任を妨げない。

第 9 条 本会の役員は、名誉職とする。

(役員の選出)

第10条 役員は、総会において会員の互選によって選出されるものとする。

(役員の職務)

第11条 役員は、以下の職務を行う。

- (1) 代表は、本会の会務を総理する。
- (2) 幹事長は、代表を補佐し、代表に事故あるときは、これを代理する。
- (3) 幹事長及び幹事は、会計を含む会務を処理する。
- (4) 会計監事は、会計を監査し、総会で監査内容を報告する。

(会計年度)

第12条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終わる。

(定期研究会及び総会)

第13条 全会員のための定期研究会は原則として、隔月に開催するものとする。総会は、年度の初めての定期研究会をもってあてる。ただし、代表が必要とするときは、臨時総会を開催することができる。

(総会の審議事項及び決議)

第14条 総会は、本会の予算、決算、その他重要事項を審議し、出席会員の過半数で決定する。
可否決議のときは、議長が決定する。

(委員会の設置)

第15条 第3条の事項を行うため、委員会をおくことができる。委員会の設置及び廃止は総会で決定する。年度をこえて委員会を継続するときは、総会で承認を得なければならない。
委員会の活動は別に定める委員会規定による。

第16条 委員会の委員長は、代表の推薦によって総会で決定する。

第17条 委員会の研究及び事業の成果は、総会又は定期研究会に報告する。

(会則の変更)

第18条 本会則の変更は、総会の決議による。

付則 本会則は、平成元年4月1日から施行する。

研究委員会内規

平成10年4月制定

平成17年4月改正

1. 研究委員会の目的

研究委員会は、構造工学に関する調査研究を行うとともに、学術の進歩に寄与することを目的とする。

2. 研究委員会の活動

研究委員会は、目的達成のため下記の活動を行う。

- 1) 研究委員会の目的に相応しい、調査・研究
- 2) 東海構造研究グループ（以下、SGSTと呼ぶ）内の他研究委員会との相互連絡
- 3) SGSTによる行事に関する企画・協力
- 4) 関連する他学協会の研究委員会および諸官公署等との連絡・調整
- 5) SGST定期研究会における成果報告
- 6) その他

3. 研究委員会の構成

研究委員会は、委員長1名、幹事1名、および委員若干名で構成する。委員はSGST会員の中で公募する。

ご連絡の「WG長」、「WG長補佐」に該当
今後は「委員長」、「委員会幹事」と呼びます

4. 研究委員会の活動期間

研究委員会の活動期間は原則として、2年間とする。

5. 研究費

研究委員会の研究費は原則として、最大100万円／2年とする。研究費の用途としては、会議費、調査費、研究旅費および謝金、等とする。会議費は、1回当たり2、000円／人を限度として使用できる。研究費の残金は、SGSTに返金するものとする。研究会の会計報告書は、幹事会を経て次年度の総会に提出し、承認を得る。

6. 運営

研究委員会の開催は、定期的に行う。ただし、委員長および委員の要望により適宜開催することができる。

7. 研究奨励

SGST活動の活性化を語るために研究奨励の公募を行うものとする。

1) 対象

- ・ 若手研究者への研究奨励
- ・ 調査研究

今回の研究委員会は
こちらには該当しません。

2) 研究奨励金給付条件

- ① 定期研究会等におけるSGSTでの成果報告
- ② 研究成果報告書の作成
- ③ 学会発表、論文投稿を推奨（SGSTの助成を明記する）
- ④ 会計報告

3) 研究奨励費

研究奨励費は原則として、最大40万円とする。研究奨励費の用途としては、会議費、調査費、研究旅費および成果品報告書の作成費とする。

8. 内規の変更

内規は、SGST幹事会で発議し総会で諮った後、代表の承認のもとに改正することができる。

平成 27 年度 SGST 第 4 回幹事会 議事録

日時：平成 27 年 10 月 16 日(金) 15:15～15:45

場所：名城大学 天白キャンパス 研究実験棟Ⅱ 多目的室

出席者：舘石(名大)、松村(瀧上)、川瀬(日中 C)、長瀬(日車)、加藤(中日本エンジ)、
川西(豊田高専)、北根(名大)、渡辺(名城大)

以上 8 名(敬称略)

<幹事会議事内容>

1. 研究委員会の活動日および内容について

1) LRFR

第 1 回 H27. 10. 19(月)or22(木) 10:00～12:00 ガイダンス(資料配布や進め方など)、
自己紹介

第 2 回 H27. 12. 21(月) 13:00～15:00 未定

第 3 回 H28. 2. 17(水) 13:00～15:00 未定

2) 新技術

第 1 回 H27. 10. 16(金) 14:00～15:15

①「スマートジंकおよびアルミ製品の性能と現場への適用について」

横河ブリッジ(株)様

②「鉄筋腐食抑制型表面含浸工法の性能と現場への適用について」

BASF ジャパン(株)様

第 2 回以降 定期研究会当日の 14:00～15:15 に活動予定

2. 新規会員の紹介

1) 特別会員

・なし

2) 正会員

・石田 真士(名城大学大学院)[暫定学生会員]

3) 名誉会員・学生会員について

名誉会員及び学生会員について規定について検討する。

他研究会の上記会員に関する規定は、添付資料参照。

4) 最新技術・情報調査研究委員会の SGST 未入会委員について

最新技術・情報調査研究委員会の委員の中で SGST 未入会の委員がいるため、委員会
幹事の岡本様から SGST に入会して頂く様案内をお願いした。

→・学生会員については、研究委員会参加の実態を踏まえ「研究委員会内規 3. 研究委
員会構成」に参加ができるよう内規文章の修正をする。(次回、事務局で修正案
提示)「会則」の修正は行わない。

・名誉会員については、「本会および構造物に関する功績が特に顕著であって、本
会の総会において推挙された者」(会費免除)との会員規定がある。該当会員か
ら申し出があった場合は、本規定により幹事会で討議し、総会での決議を行うこ
とを確認した。

3. CPDS 学習プログラム申請手数料について

従来 CPDS 学習プログラム申請手数料として、定期研究会毎に¥4,000-を納入していたが、講習会の際に CPDS 技術者証などで本人確認を行った上で、受講証明書に受講者名を印字して配布すると、申請手数料が半額になるとのこと。今年度第2回定期研究会より、受講証明書に受講者名を印字して各々に配布しているため、本人確認を行えば、申請手数料が半額になり、経費節減が可能である。本人確認については、CPDS 技術者証でなくても、名刺の提示などで代用できると考え、今回の定期研究会で試行する。CPDS から本人確認方法について、改善を指示された場合、別途検討するものとする。

→本人確認は CPDS 証、社員証、免許証などで実施する。受付の状況次第で次回以降改善する。

4. 伊藤學賞について

SGST から元瀧上工業㈱社長の高木録郎様を推薦したが、残念ながら他の候補者が受賞した。

5. 安藤浩吉様からの研究報告について

SGST 会員の安藤浩吉様より研究報告に関する資料を送付頂いた。ただし、今年度の定期研究会は、既に講演候補者が決まっているため、来年度の定期研究会で発表して頂くか、今年度中の最新技術・情報調査委員会にて発表して頂くかご提案している。

6. 鋼橋マネジメント研究会について

新技術研究委員会への意見として、村瀬委員より関西の「鋼橋マネジメント研究会」の情報提供があった(添付資料参照)。元々は、鉄道橋を主に活動しており、現在は道路橋も組み込まれている。委員会内では、各社開発中の技術も紹介されている模様(外部には秘密)。

- ・新技術研究委員会と上記研究会の情報交流などについては、木下委員長にお任せする。
- ・お付き合いする場合は、SGST として上記研究会と活動報告書の交流などを検討する。

7. 今後の定期研究会について

第5回定期研究会

日時：12月18日(金)16:00～

場所：名城大学 天白校舎 研究室実験棟Ⅱ 多目的室

研究会担当幹事：川西先生

講演内容：腐食損傷した鋼トラス橋格点部および圧縮斜材の残存耐荷性能評価

講演者：首都大学東京 野上教授

忘年会：場所未定

第6回定期研究会(現場見学)

日時：2月19日(金)

見学現場：橋梁塗替補修現場の見学をヤマダイインフラテクノス㈱(旧山田塗装㈱)様に依頼中

→上記について、幹事会での承認が得られた。なお、現場見学会は、ヤマダイインフラテクノスおよび事務局にて追加見学場所を探し、詳細を次回幹事会までに詰める。

8. 本日の定期研究会について

- ・第4回定期研究会 16:00～

内容：送電用構造物の変遷、現況およびメンテナンスについて

講演者：日本鉄塔工業(株) 本田様

以上

平成 27 年度 SGST 第 5 回幹事会 議事録

日時：平成 27 年 12 月 18 日(金) 15:15～15:45

場所：名城大学 天白キャンパス 研究実験棟Ⅱ 多目的室

出席者：舘石(名大)、松村・櫻井(瀧上)、川瀬(日中 C)、長瀬(日車)、加藤(中日本エンジ)、
川西(豊田高専)、北根(名大)、木下(岐阜大)、渡辺(名城大)

以上 10 名(敬称略)

<幹事会議事内容>

1. 平成 27 年度 第 6 回定期研究会について

来年 2 月の第 6 回定期研究会は、予定通り見学会とする。

見学場所は下記の 2 ヶ所で調整中。

- ・橋梁補修現場（ヤマダイインフラテクノス(株)（旧山田塗装）施工）

工 事 名：平成 27 年度 小島野洲線 補助道路橋梁修繕工事（橋梁名：野洲川橋）

施工場所：滋賀県野洲市野洲 地内

施工内容：塗替塗装工事・支承防錆・ひび割れ補修・断面修復・伸縮装置乾式止水材・
足場工

- ・大阪工業大学 実験センター

見学会は、当初予定通り 2/19(金)にて先方と調整する。また、第 6 回幹事会は現場見学会以外の日に別途開催する必要があるため、後日事務局から幹事各位にアンケートを送付し開催日を調整する。

※2/19 午前に大阪工大見学、午後に施工現場（滋賀県）見学でスケジュールを検討する。

2. H28 年度 第 1 回定期研究会について

来年度第 1 回定期研究会の講師候補を 2 月の幹事会までに決めておき、2 月の幹事会にて承認したい。

- ・H28 年度第 1 回研究会は海老澤先生に担当幹事をお願いし、名工大（野中先生）をご提案された。

→ 野中先生の都合を聞いて、難しい場合は別の講師も検討するとのこと。

→ 第一回定期研究会を 4/28（木）を候補日とし確定したく、幹事会は 15:00 から開催する予定。場所は来年度も名城大学での開催をお願いしたい。

3. 日本材料学会東海支部 50 周年記念誌・第 10 回研究発表会論文集への広告掲載について

岐阜大学 木下先生より上記掲載紙への広告掲載募集の連絡を頂いた。

→ 今回は見送り、今後収入が安定すれば将来再検討することとした。

4. 最新技術・情報調査研究委員会イベントについて

木下委員長より最新技術・情報調査研究委員会でイベント（名古屋）を開催したいと提案があった。

→ ・時期をこだわってはいないが、夏頃を予定したらどうか。具体的には、パネリストを講演とともに招待し、「市町村の橋梁をどうしていくか」などのテーマについて

てパネルディスカッションして頂く企画を検討したい。

- ・SGST の来年度の特別行事として、他研究会（鋼橋マネジメント研究会、KABSE など）とのコラボレーションも視野に入れ、次回の幹事会以後、最新技術・情報調査研究委員会（木下委員長）が主体で具体的な企画書を作成する方針とした。

5. 新規会員の紹介

1) 特別会員

- ・(株)特殊高所技術（代表：和田聖司様）

2) 正会員

- ・竹内 祥一様（福美建設(株)）
- ・清水 隆史様（(株)建設技術研究所）
- ・大平 浩義様（日本ペイント(株)）
- ・黒崎 和保様（新日鐵住金(株)）
- ・内山 真人様、大橋 清様（(株)オリエンタルコンサルタンツ）
- ・山瀬 不三男（シビルテック(株)）

- ### 3) 特別会員、正会員ともに最新技術・情報調査委員会 岡本委員会幹事のご尽力で新規入会者が増加している。

6. 本日の定期研究会について

- ・第5回定期研究会 16:00～

講演内容：腐食損傷した鋼トラス橋格点部および圧縮斜材の残存耐荷性能評価

講演者：首都大学東京 野上教授

忘年会：くるる名駅店

以上

平成 27 年度 SGST 第 6 回幹事会 議事録

日時 : 平成 28 年 3 月 28 日(月) 16:30~17:30

場所 : 名古屋大学工学部 9 号館 6 階 622 号室

出席者: 舘石(名大)、松村・櫻井(瀧上)、川瀬(日中 C)、長瀬(日車)、加藤(中日本エンジ)、
川西(豊田高専)、北根(名大)、木下(岐阜大)、鈴木(愛工大)、渡辺(名城大)
以上 11 名(敬称略)

<幹事会議事内容>

1. 平成 28 年度幹事団の体制について

平成 27 年度幹事団から変更がないことを確認した。

→ 事務局櫻井の所属部署の変更のみ。

→ 会計監査は、川西先生に継続して担当して頂く。

・各回の研究会担当を選任

4 月担当: 海老澤先生(名工大)

6 月担当: 鈴木先生(愛工大) → 講師は、野中先生と若手の先生で調整する。

8 月担当: 木下先生(岐阜大)【シンポジウム※】

→ 企画を木下先生にお願いし、幹事団全員でバックアップする。

10 月担当: 渡辺先生(名城大)

12 月担当: 川西先生(豊田高専)

2 月担当: 北根先生(名古屋大)

※シンポジウム(段取りを勘案し、8 月を想定)については次回幹事会にて討議が必要。
シンポジウムの開催が決定したら、SGST の収支状況を勘案し見学会を取りやめる場合がある。

2. 平成 28 年度 SGST 活動計画

平成 28 年度定期研究会開催スケジュール・会場を選定する。

・スケジュール(予定)

4 月 28 日(木)【総会】、6 月 29 日(水)、8 月 19 日(金)or26 日(金)【シンポジウム※】、
10 月 21 日(金)、12 月 12 日(月)、2 月 24 日(金)

・会場

来年度も名城大学天白校舎 研究実験棟Ⅱ多目的室を使用させて頂いてよいか確認した。

→ 上記のスケジュールの 13:00~17:30 を渡辺先生に予約して頂く。

→ 名城大学大曽根キャンパスも使用できるが、会場の広さが半分程になるため人数によっては、機会があれば使用する。

・新規委員会募集について

→ 昨年度 2 つの委員会を立ち上げたが、次年度も委員会の立ち上げについて、募集してもよいのではないかという意見があった。

3. H28 年度 第 1 回定期研究会について

第 1 回研究会担当は、海老澤先生にご了承を頂き、講師に依頼済と報告を頂いている。

講演内容：未定

講演者：市村^{いちむら}准教授（東京大学地震研究所）

講演会場：名城大学 研究実験棟Ⅱ多目的室

4. 平成 28 年度総会式次第（案）（下線部：承認審議事項）

- ・ 本会活動報告（H28/2/19 現場見学会含む）、会計報告
- ・ 各研究委員会活動報告（継続）、会計報告
 - 活動報告は、2 つの研究委員会で 15 分程度（7.5 分程度/委員会）の時間を取る。
- ・ 幹事紹介（変更がある場合）
- ・ 定期研究会スケジュール案
- ・ 活動計画
 - 総会の時間は、15：30～16：00 とする。

5. 新規会員の紹介

- 1) 特別会員
 - ・ なし
- 2) 正会員
 - ・ 加藤 久喜様（㈱建設技術研究所）
- 3) 平成 27 年度 3 月時点での会員数（【】内：前年度比）
 - ・ 特別会員：17 社【+4 社】
 - ・ 正会員：89 名【+13 名】
 - ・ 賛助会員：1 名【±0】
 - 学生会員の規定は、次期幹事団に審議してもらう。

6. 平成 27 年度 SGST 活動報告集内容の確認

- ・ 配布するデータを各自ご確認頂き、内容修正などがあれば 4 月 8 日（金）までに事務局へ報告する。
- ・ 館石代表の挨拶
- ・ 名簿（所属）の確認 など

7. 今年度会計状況を会計担当より報告

- ・ SGST 本会
- ・ LRFR 委員会
- ・ 最新技術・情報調査研究委員会

※現在：昨年度からの収支：-70,000 円程度。監査を川西先生に依頼する。

8. 土木学会 CPD について

坂井田会員より SGST の定期研究会などが土木学会 CPD に認定されるには、建設系 CPD 協議会への掲載が必要なため、対応して頂きたいとの依頼を受けた。建設系 CPD 協議会への掲載には 1 回につき 3,000 円の掲載手数料が必要である。(現状 CPDS の講習会登録手数料は 1,000 円)

→ 年間 18,000 円の支出となるが、掲載することにより新会員入会を促すことができる可能性も期待できるため、坂井田会員にヒヤリングし、土木学会 CPD ユニット取得の利用者が複数人存在する場合、4 月の幹事会にて検討する。

以 上

SGST 拡大研究会プログラム

●論文発表 午前の部(9:20~11:30) 司会：(愛知工業大学) 青木徹彦

9:20~ 9:25 1. 開会の挨拶 建設コンサルタント協会中部支部長

9:25~10:40 2. 自由テーマ論文

I-1：端モーメントと中間荷重の組合せを受けるはりの横ねじれ座屈

(名城大学) 久保全弘, (東京エンジニアリング) ○北堀裕隆

I-2：道路橋RC床版架け替え用プレキャスト鋼床版に関する実験的研究

(川崎製鉄) ○中村聖三, 川井豊, (ジョーント建設) 吉田弘

I-3：有限要素法による鉄筋コンクリート構造物のひびわれおよび破壊挙動のシミュレーション

(九州大学) ○彦坂照, John Bolander Jr.

(構造技術センター) 佐竹正行, (九州大学大学院) 劉玉攀

10:40~10:45 休憩

10:45~10:50 3. 特定テーマ論文の紹介

(名古屋大学) 宇佐美勉

10:50~11:30 4. 特定テーマ論文(午前の部)

II-1：曲げと軸力を受ける部材の安定照査における有効座屈長

(龍上工業) ○高木録郎, 西沢正博, (中日本建設コンサルタント) 羽田野英明

II-2： π ラーメン橋の有効座屈長に関する一考察

(中日本建設コンサルタント) ○羽田野英明, 庄村昌明, 遠藤賢三, 加藤幸男

11:30~12:30 昼食・休憩

●論文発表 午後の部(12:30~14:30) 司会：(名古屋工業大学) 後藤芳顕

12:30~14:30 4. 特定テーマ論文(午後の部)

II-3：高次の座屈固有値を用いた有効座屈長の決定方法

(横河ブリッジ) 尾下里治

II-4：鋼骨組の座屈設計法に関する一試み

(東京都立大学) ○野上邦栄, (室蘭工業大学) 杉本博之, 杉本治晴

II-5：骨組構造物における現行の座屈設計法の問題点とその改良法

(新日本技研) ○倉方慶夫, 梶田順一, (東京大学) 西野文雄

II-6：弾性有限変位解析による骨組構造物の耐荷力算定法

(東京大学) 西野文雄, Buntara S. Gan, ○山口栄輝

II-7：弾性2次解析を用いた骨組構造物の強度評価と設計

(名古屋大学) ○織田博孝, 宇佐美勉

II-8：骨組構造物の種々の座屈設計法の問題点について

(大阪市立大学) 北田俊行

14:30~14:40 休憩

●フォーラム(14:40~16:40) 司会：(名古屋大学) 伊藤義人

14:40~14:55 5. 特定テーマ論文のまとめ

(名古屋大学) 宇佐美勉

14:55~16:35 6. フォーラム(骨組構造物の座屈設計法)

16:35~16:40 7. 閉会の挨拶 SGST代表

フォーラム（骨組構造物の座屈設計法）の進め方（案）

- 1) 「特定テーマ論文のまとめ」に対する質疑応答
 - 設計法が具備しなければならない特性
 - 現行の骨組構造物の座屈設計法の問題点など
 - 新しい提案による設計法の分類と特徴
- 2) 各論文に対する質疑応答
 - 「特定テーマ論文の紹介」で示した分類に従って行う
- 3) 各座屈設計法の比較
 - 物理的，工学的意味
 - 各設計法の比較により，その相互関係と特質を明らかにする
- 4) 今後の検討課題，研究の方向
 - 今後，何を明らかにすべきかのコンセンサスを得る
- 5) もし，可能であれば討論の結果をまとめた，いくつかの新しい提案

臨時総会（研究委員会立ち上げ）議事録

平成 27 年度 SGST 臨時総会 議事録

日時 : 平成 27 年 8 月 20 日(木) 16:00~16:15

場所 : 名城大学 天白キャンパス 研究実験棟Ⅱ 多目的室

出席者: 青嵐【中部復建設】, 安藤(浩), 伊藤(義), 北根, 清水, 舘石, 判治, 廣畑【名古屋大】, 井上【東京鉄骨】, 入山, 加藤(幸)【中日本C】, 上田(晃), 織田, 加藤(正), 鎌田, 木原, 日下部, 坂部, 櫻井, 酒井, 高地, 種岡, 中田, 菱川, 松村【瀧上】, 内山, 野末, 藤井【パルステック】, 岡本【パシフィックC】, 小塩, 葛, 久保【名城大】, 加藤(正), 小塚, 納土【中日本H】, 川瀬【日中C】, 木下【岐阜大】, 坂井田【大日C】, 佐光【維管工房】, 園部【J I P】, 谷川, 永田【コベルコ】, 長瀬【日車】, 畑佐【興栄C】, 萬谷【川田】, 水谷【J F E】, 村瀬【愛知県】, 山田【山田塗装】

以上 48 名(敬称略)

議題: 新規研究委員会の承認について

平成 27 年 7 月 1 日に「起案書」が提出された以下 2 つの委員会の承認決議を行うこととした。

- ①「AASHTO Load & Resistance Factor Rating (LRFR) 研究委員会」
- ②「最新技術・情報調査研究委員会」

1) 新規研究委員会発足についての説明

・代表あいさつ

舘石代表より、新規委員会の承認決議を行う旨、挨拶があった。

・新規委員会設置に関する SGST 会則の説明

松村幹事長より、(委員会の設置) 第 15 条、第 16 条に関する会則の説明が行われた。また、(定期研究会及び総会) 第 13 条、(目的) 第 2 条、(事業) 第 3 条および「研究委員会内規」の 1. ~6. についての該当事項の説明が行われた。

- ・「AASHTO Load & Resistance Factor Rating (LRFR) 研究委員会」委員長候補: 判治先生(名古屋大学) および「最新技術・情報調査研究委員会」委員長候補: 木下先生(岐阜大学) より新規委員会の「趣旨」、「運営者」、「活動方針・日時」、「委員 (H27/8/20 時点)」について説明が行われた。

2) 新規委員会承認決議

- ・拍手による可否決議を行い、出席会員の過半数の承認を得たため、SGST 会則(総会の審議事項及び決議) 第 14 条に基づき、以下 2 つの新規委員会の設置が認められた。今後 2 年間の活動を開始する。

- ①「AASHTO Load & Resistance Factor Rating (LRFR) 研究委員会」

委員長: 判治先生(名大)、委員会幹事: 川瀬氏(日中コンサルタント)

- ②「最新技術・情報調査研究委員会」

委員長: 木下先生(岐大)、委員会幹事: 岡本氏(パシフィックコンサルツ)

以上



H27年度 新規研究委員会発足について

平成27年8月20日



新規研究委員会立上げ

AASHTO Load & Resistance Factor
Rating (LRFR) 研究委員会

最新技術・情報調査研究委員会

AASHTO Load & Resistance Factor Rating (LRFR) 研究委員会

趣旨：多くの橋梁が建設後50年を超え始めてきており、既設（古くなった）橋梁の耐力評価に関する要望は高まっている。本委員会では、AASHTO Manual for Bridge Evaluationにおいて定められているLoad & Resistance Factor Rating (LRFR) を対象とし、その翻訳を通じて、既設橋の耐力評価の考え方やその手法について知識を深め、構造工学に関する学術の進歩に寄与することを目的とする。

運営者：委員長 判治准教授(名古屋大学)
委員会幹事 川瀬氏(日中コンサルタント)

活動日時：定期研究会当日の午前中など、2ヶ月に1回程度の頻度で行う。
場所は名古屋大学を予定、あらかじめ各委員の担当箇所を決めておき、当日は1～2名の方が説明し、議論する。

AASHTO Load & Resistance Factor Rating (LRFR) 研究委員会

委員会名簿（8月19日時点）：

委員長	判治 剛	名古屋大学
幹事	川瀬 瞳	日中コンサルタント(株)
	廣畑 幹人	名古屋大学
	渡邊 尚彦	岐阜高専
	清水 優	名古屋大学
	土橋 勝	(株) 横河ブリッジ
	松村 寿男	瀧上工業(株)
	櫻井 勇太	瀧上工業(株)
	王 鶴男	日中コンサルタント(株)
	石田 真士	名城大学大学院

応募人数 8 名

最新技術・情報調査研究委員会

背景：我が国の社会資本ストックは今後急速に高齢化する。社会資本の維持管理・更新は、我が国全体の大きな問題。今後はより効率的・効果的な維持管理・更新のための技術開発が重要。

趣旨：本研究委員会においては、民間企業の取り扱っている構造物に関する最新の技術（製品含む）と情報の取得を目指すとともに、討議により構造工学に関する学術への進歩の寄与への適用性、将来的な展開の可能性について調査研究を行う。

運営者：委員長 木下准教授(岐阜大学)
委員会幹事 岡本氏(パンフィックコンサルタンツ)

活動日時：定期研究会前の15:00～15:40に定期研究会会場にて実施
(その他に岐阜大学サテライトキャンパスにて開催予定)

最新技術・情報調査研究委員会

年間スケジュール：

- ①小委員会委員からの研究対象に関する意見紹介
8月20日～9月末
- ②次回定期研究会にあわせて第1回研究委員会実施
10月初旬?
- ③臨時研究会を岐阜大学サテライトキャンパスにて実施

主要なテーマ：

- ①計測技術
- ②補修・補強技術
- ③劣化状態に応じた適切な補修・補強工法の選定技術

最新技術・情報調査研究委員会

委員会名簿（8月19日時点）：

委員長	木下 幸治	岐阜大学
幹事	岡本 利朗	パンフィックコンサルタンツ(株)
	松村 寿男	瀧上工業(株)
	櫻井 勇太	瀧上工業(株)
	水谷 慎吾	JFEエンジニアリング(株)
	井上 諒	(株)東京鐵骨橋梁
	加藤 正実	中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋(株)
	北根 安雄	名古屋大学
	畑佐 陽祐	(株)興栄コンサルタント
	葛西 昭	熊本大学
	内山 宗久	パルステック工業(株)
	永田 和寿	名古屋工業大学
	水野 剛規	岐阜高専
	小枝 芳樹	川田工業(株)
	入山 佑一	中日本建設コンサルタント(株)
	村瀬 佐太美	岐阜高専

応募人数 14 名

平成 27 年 7 月 1 日

東海構造研究グループ代表
館石 和雄 殿

SGST 研究委員会 起案書

起案者氏名 判治 剛
所属機関 名古屋大学

下記の通り、SGST 研究委員会を立ち上げたく、起案書を提出します。

研究委員会名： AASHTO Load & Resistance Factor Rating (LRFR) 研究委員会

研究趣旨：

多くの橋梁が建設後 50 年を超え始めてきた昨今，古くなった橋梁の耐力評価 (Load rating) は喫緊の課題である．既設橋の耐力評価の基準やガイドラインは米国をはじめ，いくつかの国ですでに開発され，実用化されている．例えば米国では，1967 年のシルバ一橋の落橋事故が発端となり，2 年に 1 回の検査と安全性評価が義務づけられ，1970 年には最初の耐荷力評価マニュアルが発表された．その後，幾度かの改定を経て，最新版として 2011 年に AASHTO Manual for Bridge Evaluation (MBE) の第 2 版が出版されている．一方，我が国では，国レベルでの橋梁の耐荷力評価マニュアルはなく，専門家の知識や経験，もしくは高度な解析などに頼らざるを得ないのが現状であり，既設橋の安全性を簡易に評価できる仕組みは整っていない．

本研究委員会では，AASHTO MBE において定められている Load & Resistance Factor Rating (LRFR) を対象とし，その翻訳を通じて，既設橋の耐力評価の考え方やその手法について知識を深め，構造工学に関する学術の進歩に寄与することを目的とする．さらに得られた成果は，報告書や雑誌投稿などを通じて広く発信し，我が国の既設橋耐力評価マニュアルの開発のための一助になればと考えている．

対象は，次世代の鋼橋業界を担う 30 代までの SGST 若手技術者・研究者，さらに大学院生を考えているが，40 代以上の方の参加も歓迎する．

平成 27年 7月 1日

東海構造研究グループ代表
館石 和雄 殿

SGST 研究委員会 起案書

起案者氏名 木下 幸治
所属機関 岐阜大学

下記の通り、SGST 研究委員会を立ち上げたく、起案書を提出します。

研究委員会名： 最新技術・情報調査研究委員会

研究趣旨：

我が国の社会資本ストックは高度経済成長期に集中的に整備され、今後急速に高齢化する。社会資本の維持管理・更新は、国のみならず、社会資本の大部分を管理している地方公共団体を含めた、我が国全体の大きな問題となっている。今までの技術開発では新設に力点を置いてきたが、今後は保全・診断を含めたより効率的・効果的な維持管理・更新のための技術開発についても積極的に行い、得られた成果の基準化、標準化を推進することの重要性が強調されている。

本研究委員会においては、民間企業の取り扱っている構造物に関する最新の技術（製品含む）と情報を紹介頂くことで会員の最新の技術・情報の取得を目指すとともに、討議により構造工学に関する学術への進歩の寄与への適用性、将来的な展開の可能性について調査研究を行うものである。本研究は、土木構造に関するあらゆる領域について研究する東海構造研究グループの趣旨に適合している。

対象は、30 代以上の SGST 中堅技術者以上（20 代も歓迎）とする。気軽に参加できる情報交換会をめざす。

本委員会の成果は SGST 報告書作成を考えている。新技術・新工法は、今後より積極的・継続的に開発が進むことが予想されるが、本研究委員会では時間・費用とも制約があるため、研究成果は明確な結論が出なくても、今後の研究の端緒になればよいと考えている。

無断掲載禁止に関するお願い

本誌に掲載する内容の全て又は一部をいかなる手段においても無断で複製・転載・流用・転売・複写等することを固く禁じます。